

令和5年度 西東京市立芝久保小学校 学校自己評価表

領域		中期経営目標	番号	短期経営目標	具体的方策	努力目標	成果目標	教職員		アンケート	評価(%)	分析	改善策	学校関係者評価欄		
								学年	評価					評価	ご意見	
		<p>＜学校教育目標＞</p> <p>自他の人権を尊重し、よりよい国際社会を築くための資質や能力の伸長を図る。自ら学び、自ら考え、元気で心豊かな思いやりのある児童の育成を目指す。</p> <p>○粘り強く考える子 自己の目標をもち、よく考え、他者の考えを取り入れて課題を解決し、学び続ける児童を育てる</p> <p>◎仲良くする子 生命の尊さや自他のよさに気付き、規範意識をもち、相互に思いやり、励まし合える児童を育てる</p> <p>○元気に活動する子 健康に留意し、規則正しい生活習慣を身に付け、運動に親しみ、進んで心身を鍛える児童を育てる</p>					<p>＜目指す学校像・児童像・教師像＞</p> <p>『自らを律し、ともに学び合う児童の育成』～生きる力を育む～</p> <p>○目指す学校像 あったか先生のいる学校：4つの「あ」を大切に、心も体健やかに育ち、学習効果上がる学校「愛情」「安全・安心」「あいさつ・温かい言葉」「ありがとう」</p> <p>○目指す児童像 自ら学び、確かな学力を身につける児童 自他の生命を尊重し、豊かな人権感覚をもつ児童 健康と安全に心掛け、体力の向上に努める児童</p> <p>○目指す教師像 教科指導や児童指導に専門的な力をもつ教師 児童理解を深め、児童の心を開く、信頼される教師 使命感と責任感をもち、研鑽に努める教師</p>					学校関係者評価		<p>A…評価は適切である</p> <p>B…評価に一部改善が必要である</p> <p>C…全体的に改善が必要である</p>		
確かな学力の向上	教職員の指導力の向上	1学	芝久保学習スタンダードに基づいた指導の実施	本時の目標を基にめあてを示し、学習の見通しをもたせる。また、めあてに対するまとめや振り返りを行い、学習した内容を再確認させる。	4	週に5回以上実施	4	児童の深まっているという評価80%以上	① 4.0	児童	94	学校の授業はよく分かる。	94	授業におけるめあてを明確にすることで、児童に自分の考えをもたせることができた。 ・芝久保学習スタンダードに基づき、児童が見通しをもって学習に取り組みできるようにしている。	A	授業におけるめあてを示し、それに対するまとめや振り返りを行い、学習内容の定着を図る。 ・芝久保学習スタンダードに基づいた指導を引き続き行っていく。 ・校内研修、校内研究等を通して、指導力の向上に努めていく。
					3	週に3～4回実施	3	児童の深まっているという評価70%以上	② 3.7							
					2	週に1～2回実施	2	児童の深まっているという評価60%以上	③ 4.0 ④ 3.5 ⑤ 3.5 ⑥ 3.7							
					1	週に1回未満実施	1	児童の深まっているという評価60%未満	⑥ 3.0 専 4.0 全 3.8							
		2学	自分の考えがもてる指導の工夫	考える内容の明確化、自分の意見をもつ時間の確保、意見交流の時間の設定などの工夫をする。	4	90%以上の教科及び単元で実施	4	児童のできているという評価80%以上	① 3.3	児童	88	授業に、自分の考えをもって取り組んでいる。	88	校内研究を進め、児童の話し合い活動を中心として、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びを実践することができた。	A	校内研究の成果を基に、児童自身が問題を発見し、その問題を解決する方法の計画を立て、結果を予測しながら学習に取り組みができるようにする。そのために、話し合い活動の充実と個に応じた指導及び支援をしていく。
					3	80%以上の教科及び単元で実施	3	児童のできているという評価70%以上	② 2.7 ③ 3.0							
					2	70%以上の教科及び単元で実施	2	児童のできているという評価60%以上	④ 4.0 ⑤ 4.0 ⑥ 3.3							
					1	70%未満の教科及び単元で実施	1	児童のできているという評価60%未満	⑥ 3.3 専 3.8 全 3.4							
豊かな心の育成	生活指導・人権教育の充実	3健	異学年交流を通して、心豊かな思いやりのある児童の育成	ペア学年活動などの異学年交流を充実させ、互いに認め合い協力できる指導を実践していく。	4	月1回以上実施	4	児童のできているという評価80%以上	① 4.0	児童	90	ペア学年活動などで、違う学年の友達とも仲良くしている。	90	ペア学年で月に1回交流を行った。しかし、毎月時間を十分にとって遊びを行たわけではなかった。また、専科が毎月の活動に参加できていない状況であるため、調整が必要だ。	A	今年度、ペア学年交流の活動内容の記録を残したため、来年度の活動内容を定める参考にして、内容をよりよくしていく。専科も担当の学年を決めて、各月の活動や遠足等にできる限り同じ教員が参加することができるようにしていく。
					3	2か月に1回実施	3	児童のできているという評価70%以上	② 4.0 ③ 3.0							
					2	学期に1回実施	2	児童のできているという評価60%以上	④ 4.0 ⑤ 4.0 ⑥ 4.0							
					1	学期に1回未満実施	1	児童のできているという評価60%未満	⑥ 4.0 専 2.5 全 3.6							
		4学	児童一人一人を大切にした指導の実施	人権教育の推進を通して、よさを認め、あたたかな心を育む指導を実践する。	4	90%以上の授業で実施	4	保護者の取り組んでいるという評価80%以上	① 4.0	保護者	94	学校は、お子様のよさを認め、あたたかな心を育む取組をしている。	94	「西東京あったか先生の取組」に関わる教員研修や、道徳教育、全員面談を通して学校で一貫した指導を行うことができています。	A	個人面談や学校生活アンケートを活用し、一人一人を大切にした指導に努めていく。
					3	80%以上の授業で実施	3	保護者の取り組んでいるという評価70%以上	② 4.0 ③ 3.7							
					2	70%以上の授業で実施	2	保護者の取り組んでいるという評価60%以上	④ 4.0 ⑤ 3.5 ⑥ 3.7							
					1	70%未満の授業で実施	1	保護者の取り組んでいるという評価60%未満	⑥ 3.7 専 4.0 全 3.8							
健康で安全な学校生活	児童の健康と安全の増進	5健	健康に関する教育の啓発・指導の計画的な実施	手洗い、安全な生活、健康についての指導を養護教諭と連携して行う。	4	毎日実施	4	児童のできているという評価80%以上	① 4.0	児童	82	手洗いをしたり、けがに気を付けて生活したりしている。	82	手洗いについて 昨年度の5月から新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことにより、手洗いに対する意識が緩んでいる。また、手洗いはするが、手をハンカチで拭くことが課題である。 ・けがについて 大きなけがの発生件数は少なかった。	A	ハンカチを毎日、持参するよう、保健だよりなどを活用し、保護者へ周知する。 ・丁寧な手洗いや、けが・事故の発生を防ぐため、すこやかタイムや学級での指導を行っていく。
					3	週に4回実施	3	児童のできているという評価70%以上	② 4.0 ③ 4.0							
					2	週に3回実施	2	児童のできているという評価60%以上	④ 4.0 ⑤ 4.0 ⑥ 2.7							
					1	週に3回未満実施	1	児童のできているという評価60%未満	⑥ 2.7 専 3.6 全 3.8							
		6健	いじめの未然防止・早期発見・早期対応	いじめ防止に関する授業や教職員の研修を行ったり、日頃のいじめ防止の対策の取組を交流したりする。また、いじめ調査や情報交換を定期的の実施し、実態把握や対応に組織的に取り組む。	4	児童への授業と教職員の研修を合計年5回以上実施	4	保護者の取り組んでいるという評価80%以上	① 4.0	保護者	94	学校は、いじめ対応やいじめ防止についての取組をしている。	94	学期ごとに学校生活アンケートを全児童に実施することにより、児童の悩み等に寄り添い対応することができた。また、教職員によるいじめ防止対策を計3回実施することによりいじめに対する意識を高めることができた。	A	今年度、研修を通して共有することのできたいいじめ防止策を各学級で日常的に実施していくことにより、一層のいじめ防止に取り組んでいく。そして、全教職員、児童ともに「いじめは絶対に許されない」という意識を高めていく。 ・いじめ防止対策委員会について周知する。
					3	児童への授業と教職員の研修を合計年4回実施	3	保護者の取り組んでいるという評価70%以上	② 4.0 ③ 4.0							
					2	児童への授業と教職員の研修を合計年3回実施	2	保護者の取り組んでいるという評価60%以上	④ 4.0 ⑤ 3.5 ⑥ 4.0							
					1	児童への授業と教職員の研修を合計年3回未満実施	1	保護者の取り組んでいるという評価60%未満	⑥ 4.0 専 3.1 全 3.8							
保護者や地域との連携	保護者・地域と連携の推進	7経	家庭や地域への積極的な情報提供	学校ホームページを適切に更新する。	4	学年や専科で1か月に2回以上更新	4	保護者のやっているという評価80%以上	① 4.0	保護者	97	学校は、ホームページを適切に更新している。	97	副校長業務支援員の協力により目標達成できた。 ・経営支援部で学校全体のHPアップ内容を確認し、HP担当が計画的に更新できるように掲載内容の集約・周知したので、学年間でも事前に準備ができた。 ・夏季休業中に、HP担当がHP更新研修を行ったので、できる人員が増えた。	A	次年度も「学年や専科で1か月に2回以上更新」を目標に、取り組んでいく。 ・記事の内容は、簡単なものでも良いこととする。 ・副校長業務支援員に頼りすぎず、教職員全体の負担にならない程度に取り組む。 ・次年度もコミュニティ・スクール実施校として、地域・保護者と連携した教育活動を継続していく。
					3	学年や専科で1か月に1回更新	3	保護者のやっているという評価70%以上	② 4.0 ③ 3.0							
					2	学年や専科で2か月に1回更新	2	保護者のやっているという評価60%以上	④ 4.0 ⑤ 3.5 ⑥ 4.0							
					1	学年や専科で学期に1～2回更新	1	保護者のやっているという評価60%未満	⑥ 4.0 専 3.0 全 3.6							
		8健	誠実かつ迅速に対応する組織運営	教職員間での連携を密にし、保護者の質問や相談に誠実かつ組織的に対応する。学年間で対応について交流し、改善点を生かす。	4	事案発生直後	4	保護者の対応しているという評価80%以上	① 3.7	保護者	96	学校は、保護者からの相談に迅速・誠実に対応している。	96	生活指導夕会等で、良いことも改善すべき点ことも、全体で交流することができていた。 ・保護者に対して、迅速かつ丁寧な対応ができていた。学年だけではなく、必要に応じて、校内委員会等、組織として対応に当たることもあった。	A	学年、管理職への報告・連絡・相談をしっかりとするとともに、校内委員会において検討する等、個人だけではなく組織で対応することで、今後も丁寧に対応していく。 ・今年度の反省を次年度へ生かすために、記録を残す。（生活指導台帳の「その他」の欄へ記入する。）
					3	事案発生当日	3	保護者の対応しているという評価70%以上	② 3.0 ③ 3.0							
					2	事案発生翌日	2	保護者の対応しているという評価60%以上	④ 3.5 ⑤ 3.0 ⑥ 3.7							
					1	事案発生2日以上後	1	保護者の対応しているという評価60%未満	⑥ 3.7 専 3.9 全 3.4							
業務の改善・働き方改革	働き方改革の推進	9経	働きやすい環境づくり	学校の5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣化）をSDGsや公費であることを意識して実施する。	4	週に1回以上実施	4	教職員の実施しているという評価80%以上	① 3.7	教職員	95	学校の5Sで整理・整頓・清掃・清潔・習慣化）をSDGsや公費であることを意識して実施している。	95	教職員の5Sの意識が継続されており、整理・整頓への意識が習慣化した。 ・長期休業中に職員全員で教材室や倉庫の整備をしたため、日々の授業準備がしやすくなった。 ・物品が公費で購入されていることへの意識が足りない。	A	定期的な備品や教材等を整理整頓する。 ・現状を周知し、リサイクル意識を高める。 ・紙や文具の無駄遣いを減らす。（画用紙の使い方・ボールペンの替芯利用・付箋の消費・印刷ミスの削減・カラー印刷の必要性の精査） ・定期的な声を掛け合い、SDGs等の意識付けをすることが必要。
					3	月に2～3回実施	3	教職員の実施しているという評価70%以上	② 4.0 ③ 4.0 ④ 4.0							
					2	月に1回実施	2	教職員の実施しているという評価60%以上	⑤ 3.5 ⑥ 3.7							
					1	月に1回未満実施	1	教職員の実施しているという評価60%未満	⑥ 3.7 専 3.7 全 3.8							
		10経	教職員の「働き方改革」への意識の向上	「学校における働き方改革推進プラン」（市教委）をひきまき、平日の在校時間を10時間以内とする取組の一つとして、定時退勤日を各自設定、実施する。	4	月に5回以上	4	定時退勤を月4回以上しているという評価80%以上	① 3.7	教職員	60	月に4回以上、定時退勤をしている。	60	目標を「月に2回から4回以上の定時退勤」に変更したが、実際には昨年同様に2回程度の定時退勤にとどまった。 ・新規採用教員、経験の浅い教員が多く、教材研究や学年の打合せ等に時間が必要であった。 ・意識改革だけでなく、より仕事量を減らしたり、効率化を図ったり必要がある。	A	全体の仕事量が減らせるよう、教員の業務そのものの見直しをする。 ・経営支援部でも効率化のアイデアを検討し、職場全体の働き方改革に取り組み。（毎月の学年だよりをなくし、学校だよりに集約する。） ・配布物の量や内容を精選し、HPに掲載する等へ変えていく。（専科だよりの内容はホームページへ）
					3	月に4回	3	定時退勤を月4回以上しているという評価70%以上	② 2.7 ③ 1.3 ④ 2.5							
					2	月に2～3回	2	定時退勤を月4回以上しているという評価60%以上	⑤ 1.5 ⑥ 2.3							
					1	月に1回以下	1	定時退勤を月4回以上しているという評価60%未満	⑥ 2.3 専 3.1 全 2.4							